

公益社団法人新潟県栄養士会 2023 年度第 3 回理事会 議事録

1 日 時

2023 年 10 月 28 日（土） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで

2 開催場所

新潟県栄養士会事務局 108 号室及び Zoom 会議

3 理事数に対する出席理事の数

25 名中 21 名出席 本日の理事会は定足数を満たしている

4 理事の出欠について

折居 千恵子	○	石澤 幸江	○	渡邊 修子	×	柄沢 弘子	○	北林 紘	○
鈴木 敏美	×	長谷川 美代	○	山田 祥子	○	近藤さつき	○	久志田 順子	○
星野 侑子	×	熊倉 利江	○	津軽 智子	○	青木 章子	○	佐藤 峰生	○
村山 真由美	×	梶谷 友美	○	本間 信子	○	小川 佳子	○	山川 琴栄	○
江口 公子	○	小林 昌子	○	久保 尚子	○	渡辺絵里子	○	村山 稔子	○

5 その他関係者の出席

稲村 雪子 (顧問)	○	入山 八江 (顧問)	○	角谷ヒロ子 (監事)	○	大平真由美 (監事)	○	中江啓太 (新発田支部)	○
千原 薫 (十日町支部)	○	阿部幸子 (事務局長)	○						

6 開会

折居会長挨拶

7 議長選出

○理事会運営規則第 6 条第 1 項に則り、理事会の議長は会長が務める。

8 議事

協議事項 (1) 2024 年度活動方針及び予算編成方針について

○柄沢専務理事より説明があった。(資料 P2~6)

2024 年度新潟県栄養士会の 4 つの目指す姿・活動の方向性

1 高齢者対策

第8次医療計画において在宅医療の提供体制が進められてくる。そのため、在宅高齢者への訪問栄養食事指導の継続、栄養情報提供書を使っての医療、福祉施設間の同職種連携、さらには他職種連携を強化し、高齢者のQOL向上に寄与する。また、国が推し進める保健事業と介護予防の一体的実施が本格的実施となるため広域連合、自治体と連携を図る。これらの実施のため①地域ケア個別会議 ②地域の活動拠点整備 ③フレイル・CKD 予防対策事業 ④多職種・他団体とのネットワークづくり ⑤保健事業と介護予防の一体的実施 ⑥人材育成 ⑦通所・施設利用者の栄養改善事業 ⑧保険制度を運用した在宅、居宅栄養指導の推進に取り組む。

2 生活習慣病の発症・重症化予防

2023年度同様に国・県などの施策と連動した取り組みの実施と、食育・健康づくり支援活動を通して生活習慣病の発症・重症化を予防する。

3 災害支援対策

災害時における支援体制の整備と人材育成の強化を図る。
そのために組織図・連絡網の整備を行い、マニュアルの作成、JDA-DAT リーダー及びスタッフの育成に努める。

4 会員減少傾向の中での会の運営

会員減少が著しい現状、もはや入会者を増やす取り組みだけではなく、いかに退会者を減らすかの方策を打ち出し、減額されていく会費収入の有効活用を会の運営改革から考えていく。

○2024年度活動方針及び予算編成方針について承認された。

- ・承認されたことより阿部事務局長から各支部、職域事業部の2024年度事業計画、予算書の作成を12月12日（火）までに提出することの説明があった。（資料P7）

協議事項（2）遊休財産の扱いについて

○阿部事務局より説明があった。（資料P8～10）

遊休財産とは実質的に目的や用途の定めがないままに保有している財産である。

公益法人における会計上の条件が3点ある。

① 収支相償がマイナスとなること。

2022年度はプラスとなった。これは事業復活支援金100万円を得たがコロナ感染拡大による公益1の事業の中止による支出減が大きな原因である。

② 公益目的事業費の割合が全体の50%以上とする。

2022年度は84%のためクリア条件を満たしている。

③ 1年間の公益目的事業費を上回る遊休財産を持ってはいけない。

2022年度は公益目的事業費 27,230,758 円、遊休財産は 31,161,577 円。
条件が満たされていない。

- ・7月7日会長、税理士、事務局長の3名で新潟県に報告し、今後の対応について検討した。
- ・税理士からは今年度中に資産の中から400～500万円を特定費用準備金としての積み立てを行うことを提案された。
- ・特定費用準備資金とは将来の活動の実施のために特別に支出する費用に充てるために保有する財産である。これは事業の実施計画、予算立てを行い、理事会にて承認を得て、この事業のためにのみ使用しなければならないものである。

以上の提案について、3つの事業を検討した。

- ① 80周年事業費 150万円・・・協議事項3で
- ② 栄養ケア・ステーション事業 250万円・・・協議事項4で
- ③ホームページリニューアル 150万円・・・広報部、事務局にて計画立案し3月の理事会にて提案する。

協議事項 (3) 80周年事業について

○石澤副会長より説明があった。(資料 P11)

新潟県栄養士会設立 80周年は 2025年度となる。

過去の周年事業を振り返ると 50周年は記念誌の作成と祝賀会を行い、70周年で記念誌を作成している。

執行部では 80周年事業について

記念誌については 70周年後の 10年間の追加のみとなり記念誌の作成には至らないと判断。祝賀会においても 80周年が果たして開催するに適切か、そして特定費用準備資金を祝賀会に充てることはできないことから開催しないこととした。

- ・そして、80周年事業として
県民に対する公益事業として、80周年記念市民公開講座を開催する。一般市民が興味を引く栄養関連の講座を2題設ける。その費用について特定費用準備資金 100～150万円を使うことを案として提出させて頂く。
- ・常任理事会において、提案の公開講座に加え、栄養士・管理栄養士を周知してもらうために各事業部から職業紹介を行ってはどうかとの意見もあった。
- ・開催についての承認をいただき、3月の理事会までに 80周年市民公開講座実行委員会を発足し具体的な計画、予算立てを協議事項として提案する。

北林理事

市民公開講座は市民対象ということだったが、これからは他職種連携の構築が大切と考える。

医療職種、介護職種を巻き込んだ連携を構築できるような内容がいいのではないかと。

折居会長

具体的な内容については今後プロジェクトチームを立ち上げて具体的に検討していくということで承った。

○80周年事業として市民公開講座を開催することが承認された。

今後実行委員会を立ち上げ、具体的な計画、予算をたて、3月の理事会に提案する。

協議事項 (4) 今後の栄養CSについて

○阿部事務局より説明があった。(資料P12)

地域包括ケアの推進に向けた栄養・食生活支援体制の充実が求められている中で、新潟県の栄養ケア・ステーション(以下 栄養CS)の活動がうまく進められていないのが現状である。これは栄養CSの方向性、体制が確立されていないことも原因と考える。さらに問題はその活動が会員及び世間に周知されていないことと、収入が現在のコーディネーターの賃金(3h/W)分にしかないことも課題である。

○久志田栄養CS事業部長より栄養CSについて説明(資料P13~14)

新潟県栄養士会の栄養CSと関連団体及び認定栄養CSとの関わりについて説明を受け、今後の栄養CS活動について1.体制作り、2.会員周知、3.情報の共有、4.資質の向上、5.受託事業件数の増加について取り組む説明を受けた。

○阿部事務局長より具体的計画と予算について示された。(資料P15)

久志田部長の案に対して積立準備金を使って3年計画で5つの課題に取り組む。

大目標は「栄養CSの事業拡大及び事業運営の自立を図る」である。この大目標実現のため3つの中目標とそれに対する7個の小目標を立てた。(資料P15参照)

経費は2024年度と2025年度はそれぞれ100万円、2026年度は50万円の計250万円を資金とする。

榊谷理事

定年退職者、中途退職者に対して呼びかけするということで、定年退職をされた方も同じ会費を徴収するのか。

折居会長

今現在、定年退職された方の会費を下げるという考えはなく、他の会員同様に生涯教育やCSの研修を受講して頂きながら、得意な分野で仕事を行っていただきたいと考えている。但し、今後進めていくうえで、要望等が出てくれば予算との兼ね合いを見ながら改めて検討していく。

青木理事

CSの研修は人材登録者しか受けられないのか

久志田理事

目的は登録者の拡大であるため、まずは登録をしてもらい、研修を受けて頂きたい。

小川理事

CS 事業は県の委託事業に上乘せするということが

久志田理事

県の委託事業の人材育成は事業の目的に即して行っており、提示されている人材育成は栄養 CS 事業を行う上でのスキルを上げるための教育である。ゆえに同じものではない。

北林理事

営業活動について、今までも行われていたのか。

久志田理事

今まで行っていない。依頼を待っていた状況である。

北林理事

今まで来た依頼は依頼者が知っていたということか。

久志田理事

そうである。長くこの事業はやっており、依頼される会社、事業所、新潟市、公益組合が毎年継続して依頼してくださる。

今後は、営業活動はさらにもっと広く事業 PR をして依頼者を募る活動となる。

北林理事

わかりました

提案として商工会議所への PR は個人商店にもつながるので良いと思うので検討いただきたい。

○栄養 CS 事業拡大と事業運営の自立を図るための計画に積立準備金を使って進めることに承認された。

協議事項 (5) 新潟栄養・食生活学会の今後の在り方について

○柄沢専務より説明があった。(資料 P16-1~16-2)

- ・新潟栄養・食生活学会は学会員の減少、運営費に当てていた保健文化賞副賞 500 万円が底をついたこと、口頭発表、学会誌の投稿者が集まらないなどの理由から 2023 年度をもって終了する。
- ・今後について 2023 年 3 月の理事会において、歴史ある学会をなくすことは惜しいということで県栄養士会に入れ、全栄養士会員を学会構成員とし、年会費は取らずに運営することを報告した。
- ・その後、執行部で検討したが、県栄内で行うには財政的にも厳しく、マンパワーも足りず、県栄事業に組み込む事は不可能であるとの結論に至った。
- ・今後の課題として、管理栄養士・栄養士の学会発表のスキルは必要とされており、また、学会発表ができる会員もいると認識している。しかし現状ではその運営も厳しい状況である。
- ・理事の皆様の意見が聞きたい。

久志田理事

会員数が減ったことについての検証はされたか。

折居会長

長い歴史の中で徐々に減ってきたことと、幹事の入替わりもあり検証はできていない。

現在は学会数も増え、Web などを利用して自宅で参加できる学会も多いことが一つの原因ではないかと考える。

久志田理事

財政的に運営ができないことが終了の原因であれば、その検証をきちんとしたうえで県栄に入れるか入れないかの議論をするべきではないか。

石澤副会長

学会を終了せざるを得ない原因はいろいろな背景が考えられる。発足当時は栄養士の学会として画期的ではあったが、今は栄養士が発表できる学会が沢山ある。そういったことが学会員の減少につながったと考えられる。

稲村顧問

学会が減った原因は H25 年に公益社団法人に切り替えられたことが考えられる。それまでは栄養士会費、連盟会費、学会費をまとめて収めることができたが、法人となり別々に収めねばならなくなった。その時に学会員が半分に減った。さらに他の学会が増えてきて脱会者が増えたと考える。

本来 H8 年保健文化賞 500 万円をいただいた時に 1 回 25 万円の学会運営費として使用できると考えていたが、実際は 27 年間続いたということである。学会が少ない当初、本学会を立ち上げ発表の場を作ったわけだが、現在多くの学会ができ発表の場が増え、当学会の役割を終えたと理解している。

県栄が続けていくかとの件について、実際お金がなく、会員が会費を払ってまでやるかという意識はないと思われる。いろいろな点から無理がある。ゆえにいったん終了し、その後栄養士会に学会を作ってほしいか、育成をしてほしいと意見があったら栄養士会の中に入れるか考えていけばいいのではないか。

山川理事

実際、学会発表するとなると、どなたかに指導を仰がないとできない。具体的にはそういった場合、お礼はいくら位なのか。

稲村顧問

お礼の予算は必要である。学術部でプログラムを組んで講師をリストアップし、1 回いくらで受益者負担を進めるべき。今後栄養士に学会発表は是非ともやってほしい。そのための育成はやはり栄養士会であると思う。学術部でそのプログラムを作ってほしい。

山川理事

日本スポーツ栄養学会ではすでに学会発表のために査読を行ってもらうなどの体制ができている。県栄において数名の発表希望者のために予算を使ってよいのか、であれば多くの会員が受けられる研修会を催してみたらどうか。

稲村顧問

それらを含め、2024 度はプロジェクトチームを作り、育成をどう行うかを議論し、予算を立て、2025 年度より行ってほしい。

長谷川理事

昨年度投稿規程とテンプレートを作った。こういったものを使って教育集会のような形で論文の書き方などを解説してもらい、少しでも栄養食生活学会が築き上げたものを元に、新たな

第2ラウンドとして意思がある人達を育てみんなで頑張る場を作っていくことが栄養士の役目ではないかと考える。

久志田理事

今のことを行うにしても、それ（プロジェクトチームによる育成についての議論自体）を行うかどうかの検討をしてもらい進めてはどうか

○2023年度で終了となった新潟栄養・食生活学会については2024年度から新潟県栄養士会に移行はしないということが承認された。以降のことは、今後必要とあれば、新たに検討することとする。

協議事項（6）災害関連対策について

○小林事業部長より説明があった。（資料P17～22）

1. JDA-DAT スタッフ養成研修会を今年度初めて行った。

Web研修2日間、サテライト研修1日を30名が受講した。

来年度以降については9月10日三役、事業部長、JDA-DATリーダーで打ち合わせ会議を行い、スタッフ養成研修会は役員改選年度に実施、一般会員へ受講の呼びかけを行うが、執行部、理事の積極的な参加をお願いしたい。

また教育研修についても毎年県栄にて行う。

従って、このことに関する引継ぎを理事をお願いしたい。

2. 防災訓練について

今年度初めて新潟県栄養士会として新潟県の防災訓練に参加した。

10月15日（日）下越地区（関川村）にて開催、JDA-DATリーダー、事業部長、事務局長の5名が参加し、災害食等の展示ブースを担当した。

今後の課題として

第8次医療「計画においても災害医療、JDA-DATの活動は重要視されている。

その中で防災訓練の参加は重要な取り組みとなる。

そこで来年度より県の防災訓練は上越、中越、下越地区ごとにJDA-DATリーダー、スタッフ支部長に参加して頂くことと、県防災局が開催する会議には開催される市町村の支部長が対応することを提案する。

榊谷理事

防災訓練の概要について説明願いたい。

阿部事務局長

主催は新潟県、加えて担当市町村が参加する。

実際の被害を想定して、そこに関わる団体（担当行政、職能団体、企業等）が参加する。

その他に関連団体の災害に関する展示を行う。

開催要項が県栄に防災局より来るので、担当支部長へ連絡する。

津軽理事

防災訓練を行うに当たり、理事会においてJDA-DATリーダー、スタッフの名前の公開をお願いしたい。

北林理事

この事業の予算建ては支部か本部か。

阿部事務局長

計画は本部でたてて、支部へ依頼する。

○防災訓練の参加について担当地区の JDA-DAT リーダー・スタッフ・支部長が参加し、会議には担当市町村の支部長が出席することが承認された。

報告事項（1）関東甲信越地区長合同会議（資料 P23）

①高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の都道府県の実施状況と今後の取り組みについて。
どの県も広域連合の関わり、市町村との関わりが難しい状況であった。
市町村の雇上げ栄養士が事業を行っていることが多く、あえて栄養士会が市町村に名乗りを上げることは難しく様子を見ていく。
広域連合については新潟県は委託されている好事例である。他県では広域連合と関わることも難しい県が多いとのことであった。

②医療計画等各種計画の進捗状況について

第 8 次医療計画が国で示され、それに基づき、現在新潟県において令和 6 年度から実施の新潟県バージョンを策定中。

③会員増対策について

どの県も会員は減っている。
対策も養成校への依頼などどの県も同じであるが、それが効果を得ているとは言えない現状である。新潟県で行っている事業への学生の参加を促すなど、新入会員へのアプローチや来年度取り組む退会者の食い止めに考えていくしかないが、会議においてもいい案は出てこない。
また産休退職者の再入会の促しも大切だと感じた。

関東甲信越地区議題

栄養行政担当者との連携について新潟県は非常に良い関係を築いていると実感した。

山川理事

一体的実施について全国地域活動事業部のブロック会議があったが、大きなテーマであった。
各県の進捗状況について教えてもらいたい

折居会長

1 県のみ県より全部委託を受けていたが、各県の進捗状況は出ていなかった。

報告事項（2）職域の変更について

○折居会長が報告した。（資料 P24～25）

日栄の決議事項として、2024 年より職域事業部の活動として政策集団としての活動加わった。
そのことにより地域活動事業部と勤労者支援事業部が統合され、「フリーランス・栄養関連企業等事業部」という名称に変更された。

各県栄においての統合、及び名称の変更をするか否かは各県栄委ねられている。

このことについて10月3日に山川地域活動事業部長、渡辺勤労者支援事業部長と意見交換を行った。

その中で地域活動において統合についての反対はなかった。むしろ統合することにより新たな情報が得られるのではないかと意見がでた。

勤労者支援では統合に賛成者もいるが、統合により勤労者の情報が少なくなるのではないかと懸念と会員であることの意味があるのかという意見もでていた。

両者の意見より、新潟県においては統合を早急には行わず、次期2年間は現状のままとしながらも、双方の活動や研修に参加できる体制をとり、お互いの領域の理解を深めたうえで再検討することとした。

報告事項 (3) 2023 年度栄養士研修会について (資料 26～27)

○村山研修部長より報告があった。

- ・2023 年度栄養士研修会は 2024 年 1 月 13 日 (土) 13 時より 16 時に新潟テルサにてサテライト研修及び Web 研修の併用で行う。

内容は新潟県福祉保健部の逸見幸恵氏より情報提供として「新潟県の栄養・食生活改善に向けた取組」

JDA-DAT 報告として JDA-DAT リーダーの磯貝知里氏より「日本栄養士会災害支援チームについて」同じくリーダーの磯部澄枝氏による「防災訓練をとおして、地域と新潟県栄養士会 JDA-DAT の関わりについて」

講演は帝京大学大学院公衆衛生研究科 博士後期課程の杉本九実先生による「行動経済学とナッジの健康づくりへの応用 ー理論と実践ー」

案内は一斉メール、HP 掲載、アドレスのない会員へはがきの送付を予定している。

休憩時間に賛助会員の Web 広告を流す予定。

新入会を促すため学生の無料受講も受け付けるので、養成校へ依頼する。

各理事へは受講勧奨をお願いしたい。

その他の連絡として

- ・職域事業部長へ来年度の生涯教育について決まったらご連絡をいただきたい
- ・新入会員の研修会を 11 月 11 日に開催予定。7 名の参加者が受講予定。

報告事項 (4) 機関紙栄養新潟の発刊について

○山川広報事業部長より報告があった。(資料 P28)

2023 年度の機関紙栄養新潟は 2024 年 5 月に総会資料と併せて作成する。

作成スケジュールは例年通りに進める。

今まで養成校卒業式に機関紙を送っていたが、今年度より新潟県栄養士会の紹介資料を新たに作成し送ることとした。

報告事項 (5) 事業報告について

○久志田栄養 CS 部長より報告があった。(資料 P29～30)

R5 年度在宅医療 (栄養) 推進事業の 9 月 1 日時点の進捗状況を報告する。

切れ目のない適切な栄養管理の提供推進により、療養者の「食べる」をつなげQOLの向上、低栄養防止等の多職種との連携を図ることを目的に4つの計画を進めている。

1. ツールの整備

栄養情報提供書のひな型を作成し、新潟県バージョンとして広く使っていただくことを目指している。

また現在各地域で作成している食形態一覧は、情報提供書の補足情報と位置づけ全支部の情報をHPに掲載することを進めている。また常に最新の情報提供ができるように変更入力が容易なフォームを現在作成中である。今年度は能登式フォーム、来年度は町田式フォームを作成予定。

2. ツールの運用推進

1のツールを各支部で取り組んでいただくために10月30日にお願いしたいことを支部長宛てメール送信する予定。また栄養情報提供の取り組み状況について県栄養士会会員が所属する病院、有床クリニック、高齢者介護施設に対して3年間、対象月を毎年11月にアンケート調査を行う予定。

各支部長には、支部医療、福祉事業部所属会員へアンケート協力の声かけをお願いしたい。

3. 研修会

①総合研修会は県介護予防市町村支援のスーパーバイザーの佐藤孝臣氏よりR6年の同時報酬改定と第8次医療計画に係るリハ、口腔・栄養の連携体制について講演頂く。

②人材育成研修会は食形態分類をよりよく知るために学会分類別コード別に特徴、食形態の内容、調理動画を2月にオンデマンド配信及びDVDを作成する。講師は近藤理事にお願いした。

4. 栄養指導媒体資料の作成

HPに掲載している資料を最新バージョンに見直し作成している。

山田理事

切れ目のないという目的であるが、非会員の施設、栄養士のいない施設に対してどのようにツールの共有を行うのか。

久志田理事

現在食形態一覧は保健所が取りまとめている地域や、新潟市は歯科医師会が区ごとに取りまとめており地域によってやり方が混在している。

その中で新潟県栄養士会はまず会員の施設から始め、段階を追って保健所、歯科医師会と連携できるよう進めていく予定である。

榎谷理事

ツール運用推進について11月に依頼ということだが、この事業はもう少し早い時期から行うことはできないのか。

久志田理事

この情報提供、食形態一覧は今後継続していくものであり年度で締め切るというものではない。

青木理事

柏崎支部の食形態一覧を提出したが、HPにアップされていない。

久志田理事

確認します。

山田理事

佐藤先生の研修について、佐藤先生はリハの先生なので栄養に関する講義をお願いしたく確認いただきたい。

久志田理事

栄養士との連携については打ち合わせの段階でお願いはしている。

村山理事

栄養情報提供書は公開されているか。

久志田理事

公開はしておらず、支部内での活用から始めてから、公開に進める。

村山理事

できればいろいろな場面で活用できるようにしていただきたい。フレイル事業においても情報の共有ができると思われる。

小川理事

情報提供書は支部だけでなく、行政、地域活動など会員に広く利用できるよう HP にアップしていただきたい。

佐藤理事

食形態一覧の情報更新をしたいが、入力フォームができるまでできないか

久志田理事

最新の情報を掲載したいが、フォームの作成に少し時間が掛かるため、現在の様式で変更したものを県栄に送っていただきたい。

報告事項その他

○阿部事務局長より報告があった。

- ① 2024 年度の防災訓練は中越地区、南魚沼市の予定。魚沼支部長に会議の参加をお願いしたい。事業計画、予算は今年度を参考に本部で作成し魚沼支部長に確認をお願いする。
- ② 毎年がん征圧新潟県大会&生活習慣病予防展が市町村持ち回りで行われており、その支部に参加をお願いしている。2024 年度の開催地は未定。決まり次第連絡する。
- ③ 支部交流会では栄養ケア担当者の情報提供も加えて頂きたい。
- ④ 本理事会議事録送付時に、半年に 1 回の役員職務執行の報告を添付するのでご確認いただきたい。
- ⑤ 次回理事会は 2024 年 3 月 9 日（土）13 時より Zoom 開催の予定

○柄沢専務理事より連絡事項

すでにご案内しているが、12 月 9 日（土）新潟テルサにて第 24 回新潟栄養・食生活学会学術集会在開催される。

午前には口頭発表が 8 題、午後は特別講演 2 題となっている。

最後の学会となるため、知り合いにも声掛けをしていただきぜひ多くの方の参加をお願いしたい。

9 議事終了あいさつ（石澤副会長）

以上、議事録に相違ないことを証するため、記名、押印する。

2023年 11月 日

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席監事 印

出席監事 印

議事録作成者 事務局長 阿部 幸子